

## 本校の取組と児童の状況について（第1回学校評議員会 校長資料）

### 1 学力向上（自ら学ぶ）

- ◎ 先生たちが熱心に授業研究に取り組み、授業の腕を磨いている（校内授業研、小中交流研、初任者への模範授業など）。R2～3年度、市学力向上研究指定校として取り組んでいく。
- ◎ 「自分の考えを持つ ⇒ 考えを表現する ⇒ 交流し合う ⇒ 自分の考えを見直す」という流れを大事にして友達と学び合うことで、考えを広げたり深めたりする学び方を身に付けさせる。
- ◎ 「さし人」の「**し**っかり本読み」。学年ごとに目標冊数を決めている。授業と関連付けた読書、辞書の積極的な活用などに取り組んでいる。
- ▲ 学力の個人差が大きい。⇒ 授業中の学習規律や学習に向かう構え、やる気や興味・関心を持たせる工夫、「さしっ子ノート」の活用などによる家庭学習の習慣づけを大事にしている。

### 2 心の教育（豊かな心）

- ◎ 「さし人」の「**さ**わやかあいさつ」はよくできている。地域の方からも「よくあいさつをしてくれる」という声を聞く。中学校につながるように「立ち止まってあいさつ」を勧めている。授業の始めや終わりの「立腰」、職員室や事務室に入る時のお礼やあいさつ指導も行っている。
- ◎ 道徳教育、人権・同和教育にしっかり取り組んでいる。学年ごとに4時間ずつの道徳必須教材を定めて実施。6年人権・同和教育の授業研究会も実施。「ふれあい道徳」は11月に実施予定。
- ◎ 生徒指導上の大きな問題はない。問題が大きくなる前に対応できている。未然に防ぐための指導や、家庭や地域との連携した取組を進めている。
- ▲ 特別活動を通じた心の教育に取り組んでいる。たてわり活動、たてわり掃除、委員会活動などを工夫して、上級生のリーダー性や自主性、下級生を思いやりお世話する気持ちが育てたい。こうした取組の全体で、「さし人」の「**人**にやさしい言葉づかい」ができる児童をめざす。
- ▲ 不登校傾向の状況が改善されている。⇒ 朝の挨拶指導、靴箱チェック、電話連絡、家庭訪問、保健室・学級との連携がよく機能している。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの先生にもつないで個別の対応を進めている。

### 3 体力向上（健やかな体）

- ◎ 虫歯の割合、処置率ともに向上している。家庭への働きかけをさらに進めていく。  
(H29⇒H30⇒R1/虫歯0本 54%⇒63%⇒60%、虫歯を治療した 59%⇒35%⇒68%)
- ▲ 外遊びを好む児童が多いが、二極化が課題。⇒ 県教育委員会主催「チャレンジ・スポーツ」に全クラスが参加して体力づくりを進めていく。
- ▲ 「県食育推進優良校表彰」を2年連続受賞。しかし、食事の偏り、朝食を食べないで登校する児童もいる。ゲーム等で夜更かしなども含め、生活習慣の改善が必要と考えられる家庭もある。

### 4 その他の主な取組

#### (1) 特別支援教育

- ◎ 学習ルーム（特別支援学級）で、それぞれの児童の特性に応じた教育を行っている。また、通級教室（西唐津小）に通う児童もいる。⇒ 落ち着いた雰囲気の中で学習できている。通常学級に在籍している特別支援学級や通級で学んだがよい児童の保護者との関係づくりを進めている。

## (2) 地域に開かれた学校づくり

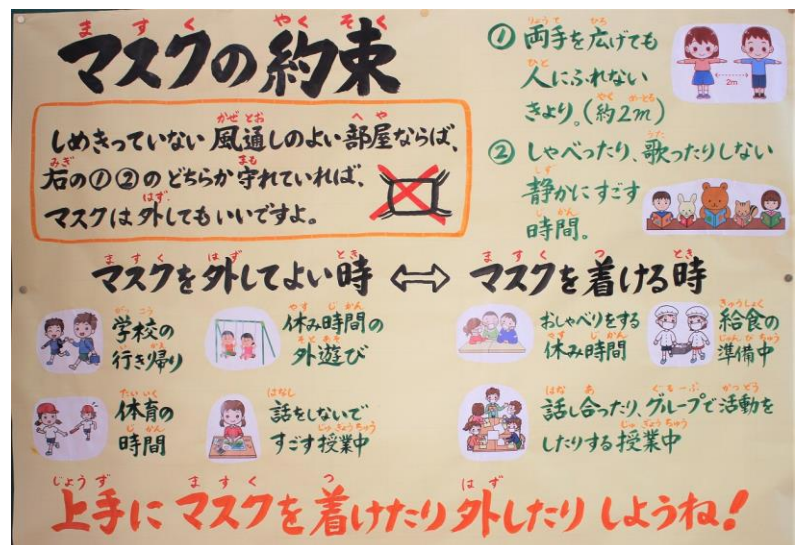
- ◎ 学校の教育活動を公開し、学校評価や情報交換を行いながら、改善に努めていく。
  - ⇒ 学校公開…参観日、運動会、民生児童委員会参観
  - 情報交換…懇談会、PTA総会、学校評議員会、民生児童委員会、その他の会議
  - 情報発信…学校ホームページ、学校だより、学年・学級通信、その他の通信
  - 評価…「学校評価アンケート」「いじめ・体罰アンケート」
- ◎ これまでのつながりを大事にして教育計画を立て、学校教育への協力をお願いしてきた。社会科や生活科、総合的な学習の時間などで、外部講師やボランティアの活用を進めている。
  - ⇒ 学習ボランティア（読み語り、そろばん教室、地域の歴史学習、漁業体験学習、いも植え・いもほり、手洗い教室、乗馬体験、むかし遊び体験、ポラテック工場見学、など）
  - 社協事業の活用（セラピューティック体験、車いす体験などの福祉体験）
  - 環境整備ボランティア（PTA環境整備作業、運動場草刈り・木枝切り作業）
- ⇒ 「地域から」学ぶことが増えてきているので、「地域へ」発信したり、地域行事・ボランティア活動へ参加したりすることで、地域を愛する心を育てたりしていきたい。

## (3) 小中・幼保小連携

- ◎ 中学校とは、小中交流授業研究会、小中合同人権・同和教育研修会、小6中学進学説明会、小6中1情報交換会などの会議や研修のほか、中学生が小学校に来てあいさつ運動、職場体験、運動会ボランティアなどに取り組んでもらっている。
- ◎ 第2波による臨時休校等への備えとして、佐志小中でライズ社と「e ライブラリアドバンス」を契約（7～3月）し、在宅オンライン学習や分散登校に対応できるようにしている。また、動画教材や画像資料、補充学習や発展学習で活用できる学習コンテンツも豊富に揃っている。日々の授業等でも積極的に活用していく。
- ◎ 保育園とは、各種行事（運動会、文化祭、おゆうぎ会）の相互参加をしている。小学生が、佐志保育園、唐房保育園、若葉保育所へ出かけて、一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせや合唱・合奏、ダンスなど発表したりしている。唐房保育園とは、合同で地震・津波避難訓練を行っている。担当者が各園に出向き、配慮を要する園児について情報交換を行っている。

## 5 主なコロナ対応

- ・ 家庭での検温と健康チェック、登校時の健康観察を確実にし、風邪等の症状が見られたら、家庭連絡して帰宅させる。（学校での感染拡大防止に最も有効と言われている）
- ・ 学校では、3密のリスクを下げる取組と手洗い、マスク、消毒を実施。
- ・ 健康診断では、学校医、学校歯科医の指導に従い実施。



- ・ 熱中症にもならないように、①エアコンの使える部屋を確保する、②涼しくする、③日陰を作る、④給水をする、⑤下校時の暑さを回避する、⑥マスクの着脱を工夫する、の手立てをとることにしている。